

越谷駅とその周辺
国鉄武蔵野線と東武伊勢崎線
越谷レイクタウン
越谷市内の元荒川
葛西用水と赤水門
越谷の商店街
越谷市民まつり
越谷の小学校①
越谷の小学校②
越谷の中学校
越ヶ谷高等学校

(広報こしがやお知らせ版平成29年11月・12月号、30年2月～10月号に掲載したものを再編集しました)



越谷駅とその周辺



▲現在の越谷駅を北越谷駅方面に向かって撮影。木々に代わりマンションが立ち並ぶ＝産婦人科菅原病院の協力により撮影

大 正9年4月17日、越谷駅が「越ヶ谷駅」として開設される以前は、現在の北越谷駅が「越ヶ谷駅」だった。「町の発展と産業の振興のために町の中心部に

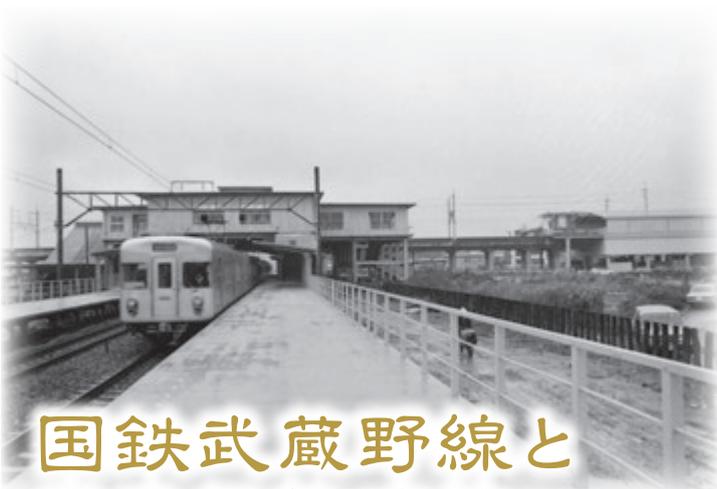
駅を」という、当時の越ヶ谷町民の熱心な誘致活動の結果、東武鉄道の初の請願駅として新駅・越ヶ谷駅が開設。それに伴い、旧・越ヶ谷駅は武州大沢駅と改称され、昭和31年

▲まだ高架化されていない線路と越谷駅舎。ホームに到着する直前の電車を北越谷駅方面に望む＝昭和35年ごろ。市民提供

12月には、それぞれ越谷駅、北越谷駅と改称された。
平成9年に複々線高架化が完了した越谷駅は、24年9月、市の玄関口にふさわしい新たな顔に生まれ変わる。平成2年から22年の歳月を経て越谷駅東口再開発事業が完了。駅前広場も南北2つのロータリーを擁し整備前の2倍の7000平方メートルに拡張、東口の新たなシンボルとなる越谷ツインシティがオープンした。

昭和48年4月、国鉄（現JR）

武蔵野線は府中から浦和、越谷を経て松戸までが開通した。市内では、東武伊勢崎線をまたいで交差する地点に、国鉄武蔵野線「南越谷駅」が開設され、約1キロ離れた蒲生駅とともに、国鉄武蔵野線と東武伊勢崎線の乗換駅に利用された。49年7月に東武伊勢崎線「新越谷駅」が開設されたことで、南越谷駅・新越谷駅周辺の人口が急速に増加して



国鉄武蔵野線と東武伊勢崎線

いった。

平成元年7月、都市計画に基づく東武伊勢崎線の複々線高架化工事（連続立体交差事業）が埼玉県主体で着工すると、6年11月に東武伊勢崎線の高架がJR武蔵野線の上をまたぐようになった。その後、13年3月に東京都境から北越谷までの約12・5キロにわたる東武伊勢崎線連続立体交差事業が完成した。

▲新越谷駅上りホームの蒲生駅寄りから撮影した写真。右に写っているのが南越谷駅である。この頃の東武伊勢崎線は国鉄武蔵野線より低いところを走っていた＝昭和49年ごろ

▲現在の南越谷駅と新越谷駅＝朝日生命越谷支社の協力により撮影



治水

水対策を目的とする河川事業による調節池の建設と、土地区画整理事業による新市街地整備を一体的に行う「レイクタウン整備事業」が、昭和63年4月に国の新規事業として創設され、越谷レイクタウン地区が事業採択された。平成11年12月から都市基盤整備公団（現UR都市機構）により、計画面積225・6ヘクタール、計画人



越谷レイクタウン

▲造成中のレイクタウン。大相模調節池の北西方向から、現在の越谷レイクタウン駅方面を望む＝平成17年

口2万2400人という大規模な事業が始まった。

事業は順調に進み、20年3月にJR武蔵野線に越谷レイクタウン駅が開業、4月に越谷レイクタウン地区のまちびらきが行われた。26年10月に、最大で120万立方メートルを貯水することができる大相模調節池が完成。同年11月に換地処分公告が行われ、相模町、大成町、川柳町、東町の各一部が「レイクタウン」に町名を改めた。



▲現在の大相模調節池とその周辺（調節池南側から）



越谷の商店街

日 光街道第三の宿場町として栄えた越ヶ谷宿は、日光街道の公用荷人運輸の中継所として設けられた。天保14年（1843）には戸数1005軒、人口4603人を数え、旅籠屋は、本陣、脇本陣を含め57軒が軒を連ねていた。

近年になると、鉄道の開通により各駅周辺を中心として商業活動が活発化。日光街道沿いにも多くの商店

が建ち並び、都心的商業地である越谷駅周辺地区をはじめ、さまざまな性格を持つ商店街でにぎわった。

平成30年現在、市内には21の商店街があり、それぞれ地域の特色を生かした取り組みが行われている。本市初の国登録有形文化財の木下半助商店がある旧日光街道沿いの中町商店街では、コミュニティカフェの新設や蔵や屋敷の再利用などが行われ、さらなるにぎわいの創出が期待されている。

▲河内屋旅館の看板と左側に四ツ目屋の看板が確認できる＝昭和37年ごろ



◀現在の中町商店街

越 谷市民まつりの始まりは、昭和50年に行われた「第1回交通安全市民まつり」までさかのぼる。第1回交通安全市民まつりでは、46年9月開催の「交通安全市民集会」で行われたパレードを継承し、北越谷駅東口広場から市役所まで交通安全パレードが行われた。当時は1カ所からの出発だったパレードも、現在は、越ヶ谷小学校など3カ所からの出発となっている。



越谷市民まつり

▲ステージに立つ歌謡漫唱「シャンパロー」。ステージ以外にも野菜市やオークションなどで市民を楽しませた＝昭和50年9月

▶第1回から続く交通安全パレード。市民栄誉賞第1号を受賞した星奈津美さんも参加した＝平成28年10月



まつりの催しも時代とともに変化してきた。昭和51年の第2回交通安全市民まつりでは、ふるさとへ無料で電話がかけられる「ふるさと電話」が人気を呼び、52年の第3回交通安全市民まつりでは、24年間続いたミスコンテストの第1回が行われた。

元号が昭和から平成に変わり、交通安全市民まつりも越谷市民まつりと名称を改めた。



越谷の小学校①

▲昭和30年ごろの蒲生小学校。校庭に人文字で右に「ガモウ小」、左に「GAMO」と描かれているように見える＝谷澤正己さん(蒲生西町)提供



▶中央の白い建物が現在の蒲生小学校。左端の白い建物は隣接する蒲生第二小学校

幕

末から明治初期にかけての越谷には、庶民の教育機関として多数の寺子屋があったが、明治5年に学制が頒布されると、その多くが学校施設へと利用されていった。

全国に2万6000ほどの小学校が設置されたのは、学制頒布から、わずか3年から4年のこと。越谷においても、明治初期には10校を超える小学校があった。明治6年に

越ヶ谷小学校、新方小学校、大袋小学校、荻島小学校、出羽小学校、蒲生小学校、大相模小学校、増林小学校の前身となる学校が開校。次いで、10年に大沢小学校、19年に桜井小学校の前身となる学校が開校した(開校当時は現在の校名と異なる学校もあった)。これらは、明治、大正、昭和と3つの時代を経て、現在まで100年以上の歴史をつないでいる。

つないでいる。



越谷の小学校②



▲建築中の平方小学校。4月の開校を目前に建設工事が急いで進められた＝昭和50年1月

◀現在の平方小学校

第

二次世界大戦後の昭和22年3月、学校教育法が公布され、六・三制の学制改革が行われた。

市では37年の東武鉄道と地下鉄日比谷線の相互乗り入れなどを契機に人口が急増し、42年10月には10万人を突破。これに合わせ、小学校も次々と新設され、42年から51年までの間に、川柳小学校を皮切りに、14校の

小学校が開校した。さらに、53年から56年にかけて4校が開校、33年の市制施行から25年間に18校もの小学校が開校した。児童数も43年の1万人弱から、53年の2万5000人超と、約2.5倍に増えた。その後、平成2年に花田小学校、19年に30校目となる城ノ上小学校が開校し、現在に至っている。



越谷の中学校

▲木造校舎の北側(写真左奥)に鉄筋造りの新校舎が並ぶ
東中学校=昭和42年ごろ



◀現在の東中学校。木造校舎のあった場所には、昭和53年に職員室などが入る現在の校舎が建てられた

昭 和22年4月に新学制による3年課程の新制中学校が発足したころ、戦後の資材不足により新制中学校のほとんどが、小学校の一部の教室などを代用していた。越谷町が成立した29年。施設や設備の充実を図るために町内に10校あった中学校を5校に統合する計画が進められた。当時、独立した校

舎がなかった増林と大相模の中学校は、校舎の新設を熱望。結果、32年に越谷初の統合中学校である東中学校を開校するに至った。33年の市制施行以降は、34年から38年にかけて3校の開校、1校の改称が行われた。その後、40年代の人口急増に伴い、次々と小学校が新設すると、中学校も47年から59年にかけて10校が開校した。



越ヶ谷高等学校

▲越ヶ谷高等女子学校のころの正門。久伊豆通り側にある(現在は使用されていない)=昭和20年ごろ。安藤一枝さん(北越谷)提供



▶現在の越ヶ谷高校の正門。青葉通り沿いに設置されている

市

市内で最も歴史がある高校の埼玉県立越ヶ谷高等学校は、大正15年、越ヶ谷町立越ヶ谷実践女学校として開校したのが始まりとされている。

昭和3年に越ヶ谷町立越ヶ谷実科高等女学校に改称。5年に県に移管され、埼玉県立越ヶ谷高等女学校となった後、23年には戦後の学制改革によって埼玉県立越ヶ谷女子高等学校

校に改称された。

24年に男女共学となったことから現在の校名に改称。33年11月3日の越谷市制施行記念式典が越ヶ谷高校を会場に行われたほか、越ヶ谷高校の教員だった故・有瀧龍雄氏の所有地が市に寄贈され、現在は越ヶ谷リタキ植物園として市民に親しまれているなど、市の歴史とも関係が深い学校となっている。